

F ACULTY **D** EVELOPMENT

I N V I T A T I O N

山梨大学教育人間科学部

第 12 号

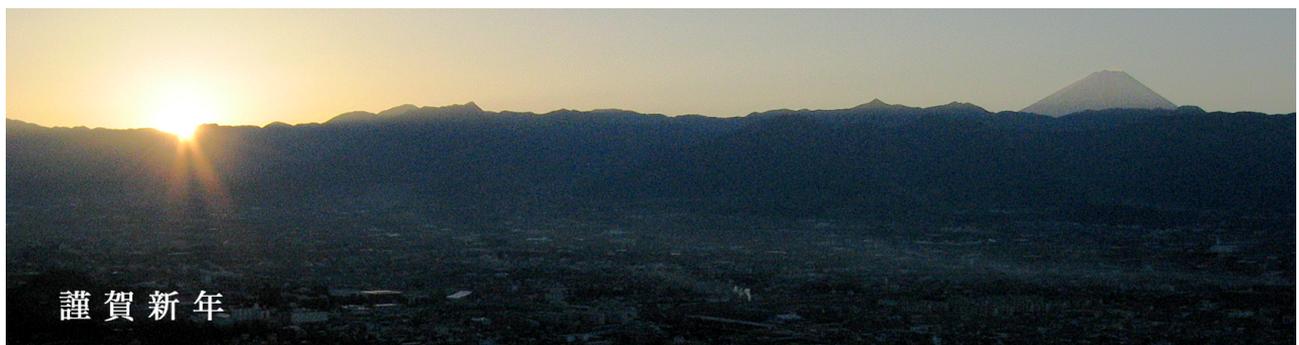
Jan. 12, 2005

全学FD研修会 開かれる！

去る 12 月 25 日（土）から 26 日（日）にかけて、山中湖畔にある筑波大学山中研修所にて、平成 16 年度第 1 回山梨大学全学FD研修会が行われました。教学担当理事の黒澤副学長以下 32 名、うち教育人間科学部からは 10 名が参加しました。本学部より参加いただいた方々から個人的な感想や印象を寄せていただきました。全学FD研修会の概要を知っていただければ幸いです。

今後、学部のFD、全学のFDのそれぞれのあり方、両者の関係を考えていく一助としたいと思います。参加され、寄稿していただいた方々に感謝致します。

(H)



謹賀新年

第1回山梨大学全学FD研修会に参加して

鈴木俊夫

突然降って沸いたように、私はFD研修会への学部派遣メンバーになった。12月25、26日というのは、私はクリスチャンではないので通常はこの日に特別な思いはないのだが、今年は是非にと予定していたことがあったので、実に悔しい思いでの参加だった。

共通科目を中心とした討議が行われた研修会ではあったが、最近の各学部の諸々の改革のあおりがもたらしている教育への矛盾がよくわかり、学生たちからもれ聞こえてくる大学教育・講義への不満がもっともだと痛切に感じさせられた2日間でもあった。

シンポジウムの討論を通して、我々がしなければならぬ事、考えるべき事柄がかなり理解できたことは有意義で、これから自分のなすべきことを整理してみようと思っている。

中でも参加してよかったことは、新しい知見とあわせて、今まで漠然と感じていたことが明確になった寺崎昌男先生の講演だった。再認識すべきだと思う次の3点をメモしておく。

1. 受験生から見た大学評価基準は「大学にはいつから伸びるか」。
2. 入学後の学生がまず求めることの第一歩は「自分とは何かにつながる自分の居場所の確認」。
3. 詳しくは説明されなかったが（資料で示された）「教授たちの倫理規範」：真理に対して、そしてそれを追求する一人として謙虚であること。単なる専門家であることの自覚。一人一人の人間の威信と価値を尊重する。

第1回山梨大学全学FD研修会に参加して

小山勝弘

全学FD研修会に教育検討専門委員会のメンバーとして参加した。当該委員会で試案を検討中の「履修単位の上限設定」について、シンポジウムで交わされた議論を踏まえて報告し、今回のFD研修会全体を通して感じたことを述べさせていただきたい。

国立大学法人山梨大学の中期目標の中に、「学生の自主的で目的意識を持った学習態度を涵養するために履修単位の上限設定を検討する」ことが示されている。これを受けて、共通科目を対象にした履修の上限設定（CAP制）導入の可能性について試案を提示した。山梨大学の教育課程は教養科目と専門科目を完全分離せず、両者の並列開講を行ういわゆる「くさび形教育」を柱にしている。しかし現状では3年次から専門科目が急増するカリキュラムになっているため（教育人間科学部と工学部）、1、2年次の共通科目履修数を制限することは専門教育を圧迫することに繋がり、大規模な教育制度改革が必要となる。仮に大きな改革（≒混乱？）を回避するため、「検討」の結果CAP制を採用しないという方針を示したとしても、少なくとももう一つの問題が残る。それは大学教育制度の根幹にある「単位制」の形骸化を野放しにするという姿勢を示してしまうことである。本来CAP制は単位制の実質化を図るために採用されている制度であり、実行不可能な学習量に相当する科目登録を認めるべきではないという視点から生まれている（大学設置基準第27条の2、1998年10月大学審議会答申）。「1単位は45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、...（大学設置基準第21条）」と定められており、年間50単位を修得する学生の場合（本学の1、2年次生に多数存在）、1日当たりの学習時間は計算上15時間になる。不可能ではないが現実的ではない。CAP制の放棄はこの非現実的な履修状況を黙認し続けることをも意味している。腰を据えて現行の制度を抜本的に見直すべきなのか、単位制に固執しない新たな教育システムを創造すべきなのか。

法人化により大学淘汰の時代を迎えた今、このような歴史的矛盾に対して速やかに対処していくことが我々に求められているのであろう。迅速な舵取りのためにはまず、山梨大学（あるいは教育人間科学部）が直面している様々な課題について全教職員が理解し、問題意識の共有化を図ることが重要なのではないかと全学FDを通して強く感じた。

自分の居場所を知ること

進藤聡彦

年末の慌ただしい中での、また寒い時期の山中湖での宿泊研修ということで、お役目（関係委員会の委員）だからと諦めの心境で参加したというのが本音であった。しかし、参加してみると教学関係の新たな企画等について詳細を知ることができたし、参加者のさまざまな意見に触れることができ、自分にとってはそれなりの成果があったと感じている。

なかでも特に印象に残ったのは、寺崎昌男氏の講演の中で触れられた「自校史」の授業についてであった。これは大学生に自校の歴史（ゴシップ的なものも含めて）に関して教えるというものであり、氏自身の実践によれば、受講後の学生は目に見えて生活に張りがでてくるようになるという。たしかに、自分が所属する大学について、その正体が不明では自身をその中に位置づけることはできない。やや大袈裟に言えば、自校について知ることはその大学の学生としてのアイデンティティを確立する前提になることであろう。そして、自分の居場所が明らかになることは、次に進むべき道筋を示してくれるのではないか。このことは、所属大学についてだけでなく、自分の専攻する学問領域についても当てはまるのかもしれない。自身の学ぶ学問領域がどのように発展し、またそれを学ぶことは学問の世界で、あるいは社会の中でどのように位置づけられるのか、そういったことを知らせ、自分の居場所が明らかになった学生は、自ら学びの道筋をつけるようになるのではないだろうか。そうした授業を試み、その効果を検証してみたいくなるような寺崎氏の話であった。

全学FDに参加して

小島千か

「えっ私が???'という思いで参加しましたが、大変勉強になり有意義な2日間でした。1日目、寺崎昌男先生の講演は興味深く、中でも「アメリカの大学教師論に学ぶ」としてE.L.ボイヤーの『大学教授職の使命』から、大学教員の仕事として研究か教育かの二者択一は古典的葛藤であり、もっと広い視野が必要であるという内容には、私のこれからの姿勢を示してもらえたようでした。また、授業の導入の工夫や、講義一資料主義、双方向的授業などFDで身につけたいこととして述べられた内容からは、改めて自分の授業を振り返ることができました。

2日目の「教育評価・フィードバック」に関するシンポジウムでは、平成15年度に学生に対して行ったWebによる授業評価アンケートの検討結果が報告され、回収率upのために紙を使用することや、目的を明示するなど改善されたアンケートが提案されました。全講義後の1回では次年度の授業に反映させるしかなく、講義を受けていた学生にフィードバックする機会がないから、2回やった方がよいのではという意見も出ましたが、阿部先生は、このような評価は最低限のもので、日々の授業の中でのものが大切だと発言され、私も全く同感でした。今回の研修では、大学教員の教育に対する意識改革に関して多方面から議論された感がありましたが、そういう点では、教育評価も大学評価機構に対応するためにどのようなアンケートを作りどのように行うかというような議論だけでなく、1時間の授業の中での評価・フィードバックについても議論の必要があったように思います。それらは、寺崎先生の双方向的授業にも結びつき、より具体的な高等教育における指導と評価のあり方の議論につながると思いました。ボイヤーの著書は惹かれるものがあり、帰宅後読んでみましたが、今回のFD研修の内容すべてに関わることが分かりました。

研修に参加させていただけてラッキーでした！

全学FD研修会に参加して

阿部 茂

初めて行われた全学FD研修会に参加して感じたことを少々述べてみたい。

学部を越えて大学全体に関わる何らかのテーマについて意見交換する場という、これまでは個人的なつながり、または全学の委員会、という形しかなかったと思う。しかし、前者ではその広がりがどうしても限定されてしまうし、後者では所属の学部を代表したり、その利害を背負って発言したり、というこれまた一種の限定が多かれ少なかれつきまとったのではないかと思う。今回の研修会では、参加者から、立場にとらわれない山梨大学の一員としての率直な発言が多くなされたように感じた。

最近、FDと併せて、SD (staff development : 職員の能力開発) ということばもしばしば耳にするところとなっている。“学部を越えて” という発想をさらに拡大して、FDとSDを一体のものとし、教員と職員とが一緒になって大学の現状を見つめ課題を論ずる場として発展させていくことが望まれるのではないかと思った。

もちろん、それぞれの学部には教育目的・組織の独自性があるので、全学FDと学部FDとがどのように役割を分担していくかも、検討すべき課題であろう。

平成16年度山梨大学第1回全学FD研修会日程表

	平成16年12月25日(土)	平成16年12月26日(日)
7:00		起床
7:30		
8:00		朝食(食堂)
8:15	集合(玉穂キャンパス)(貸切バス)	
8:30	玉穂キャンパス出発	(清掃・後片付け)
8:45	集合(甲府キャンパス)	
9:00	甲府キャンパス出発	シンポジウム(セミナー室 A) 【教育評価・フィードバック関係】
9:30		
10:00		シンポジウム(セミナー室 A)
10:30	筑波大学山中共同研修所着	【大学教育研究開発センター関係】
11:00	開講式(セミナー室 A)	
11:15	(日程・研修内容説明) (研修者自己紹介)	
12:00	昼食(食堂)	昼食(食堂)
12:30		
13:00	講演(セミナー室 A)	シンポジウム(報告)(セミナー室 A)
13:30	【講演者：寺崎昌男 先生】	
14:00		
14:30		閉講式(セミナー室 A)
14:45	(記念写真)	
15:00	シンポジウム(セミナー室 A) 【共通教育科目改革関係】	筑波大学山中共同研修所発(貸切バス)
15:30		
16:00		
16:30		玉穂キャンパス着(解散)
17:00	自由時間(入浴等)	甲府キャンパス着(解散)
17:30		
18:00	夕食(食堂)	
19:00	シンポジウム(セミナー室 A) 【少人数ゼミ関係】	
20:30	自由時間(懇親会・セミナー室 B)	
22:00	就寝	